

令和2年度（令和2年12月実施）

「読書に関する調査」のまとめ

～読書指導の改善・充実に向けて～

学校教育課通信

令和 3年 2月 2日 第164号

編集・発行：県南教育事務所 板橋竜男

令和2年12月に実施した「読書に関する調査」の県南域内の調査結果です。今回の結果を各学校での読書活動の推進、充実に役立てていただければ幸いです。教育課程編成において各教科における学校図書館の活用などの視点でもご検討いただければと思います。各市町村教育委員会及び各小中学校におかれましては、調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

<令和2年度の調査結果及び過去2年間との比較と考察>

○ 対象人数 域内全小・中学校全学年（1学級抽出又は全学級）

計 7,739人（域内全小・中学校在籍者の76.2%）

（ピンク……3年間で一番よい 青……3年間で一番低い）

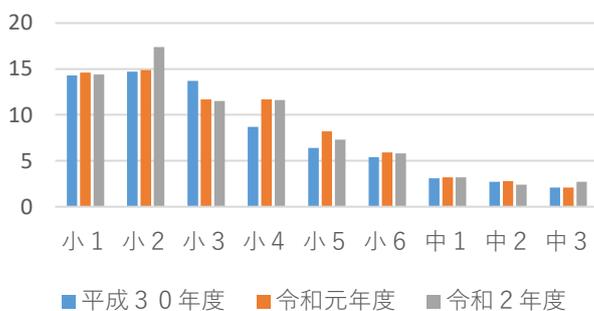
1 平均読書冊数について

（単位：冊）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成30年度	14.3	14.7	13.7	8.7	6.4	5.4	3.1	2.7	2.1
令和元年度	14.6	14.9	11.7	11.7	8.2	5.9	3.2	2.8	2.1
令和2年度	14.4	17.4	11.5	11.6	7.3	5.8	3.2	2.4	2.7



読書冊数（平均冊数）



- 小学1～4年生までは10冊以上の読書冊数となっており、特に2年生は3年間で最多冊数である。各教科で学習する内容との関連読書や同じ作家による本の紹介等が計画的に行われているものと思われる。
- 中学生の読書冊数は、増加傾向にあるが2～3冊である。さらに読書に親しむために学年ごとに目標冊数を設定したり、各教科の学習内容と関連する読書を励行したりしていくことが考えられる。

【平均冊数が多い学校の取組紹介】

【白河市立小田川小学校】

- ① 関連読書の紹介並びに新刊本、話題の図書コーナーの設置
- ② 各学年10～15冊挙げられる「必読書」について「読書手帳」のような形で借りた日、返した日、感想を記録し、すべてを読むとしおりと賞状を授与
- ③ 学年ごとに設けられた「貸出冊数」をクリアするとシールを贈呈
- ④ 「白河語りの会」や読書ボランティア、保護者による年6回の読み聞かせ学校図書館司書との連携を図った「秋、冬の読書キャンペーン」の実施
- ⑤ 国語科と生活科での白河市立図書館への訪問
2年生の生活科の授業の一環として電車で白河市立図書館に赴いて本の借り方や探し方などの指導を受け、実際に借りる。返却は家庭にお願いすることで、家庭での読書機会の充実も図る。
- ⑥ 机のわきの手提げ袋にいつも一冊本が入っており、すきま時間にすぐ本が読めるようになっている。



2 【不読者（1か月に1冊も読まなかった児童生徒）の割合】

※第四次福島県子ども読書活動推進計画 1ヶ月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合目標 100%（R6まで）

（単位：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成30年度	0.2	0.5	1.1	2.4	2.4	2.9	16.8	13.0	27.9
令和元年度	0.6	0.1	3.3	1.9	1.8	3.3	10.4	10.3	25.4
令和2年度	0.5	0.2	2.5	2.7	5.5	3.7	9.5	11.7	16.5



- 小学校は、1・2学年においては昨年に引き続き不読者の割合が大変少ない。一方で、5学年は過去と比べ、読書冊数は大きく減少していないが不読者の割合が約3倍となっている。
- 中学校は、3学年において不読者の割合が減少している反面、小学校と比較すると割合は多い。読書のきっかけとして「学校図書館や本屋で見つける」「友達に紹介された」が多く挙げられることから、ブックトークやビブリオバトル等で本を紹介し合う場を増やすことが不読者を減らすことにつながると考えられる。

3 【多様な読書活動について】

- 校内で読書活動推進の取組を行っている学校（小学校37校、中学校18校）※取組の内容（複数回答可）

項目	小学校	中学校
図書の読み聞かせ・ブックトーク等	34校	6校
読書感想文コンクールの実施	11校	7校
必読書・推薦図書コーナーの設定	30校	14校
目標とする読書量の設定	21校	6校

「多様な読書活動の紹介」
～私の学校、〇〇したら読書
するようになりました！～

【白河市立白河第三小学校】

～ 読書運動会 ～

今年度は、春に行われる予定だった運動会が延期されたこともあり、子どもたちが楽しみにしていた運動会を読書になぞり「読書運動会」を設定しました。1～6学年の1～3組を縦割りで運動会同様に「赤・青・黄」の3色に分け、期間内にどれだけ本を読んだかを競い合います。途中経過も含め、結果については全校生徒が見られる場所に掲示し、毎週更新をしていきます。子どもたちは、優勝を目指してそれぞれが一生懸命に読書を行いました。また、それらを図書委員会の子どもの自主的な活動として位置づけることで全児童が主体的に活動に参加しようとする意欲も向上させることにつながりました。



【白河市立表郷中学校】

～ビブリオバトル～

国語科と総合的な学習の時間を使い、全校生徒が参加してビブリオバトルを実施しています。1～3学年まで縦割りで班を編成し、カリキュラム・マネジメントの一環で国語科と総合的な時間を活用して全校生徒参加のもとに予選会、準決勝、決勝リーグを行います。聞き手の生徒からは紹介された本を「読んでみたい」「どんな本か続きが気になる」などの感想が寄せられており、読書の意欲向上と「表現力」や「聞く力」の育成にもつながっています。

